





審査結果報告書

2021年 2 月 8 日

主 査 氏 名	岩 渕 和 也	
副 査 氏 名	佐 藤 俊 哉	
副 査 氏 名	岡 本 浩 嗣	
副 査 氏 名	宮 岡 等	

1. 申請者氏名 : DM17033 柳田 敦子

2. 論文テーマ :

Clinically based score predicting cryptogenic NORSE at the early stage of status epilepticus

(てんかん重積状態発症早期に cryptogenic NORSE を予測する臨床情報に基づいたスコア)

3. 論文審査結果 :

新規発症の難治性てんかん重積状態 New-Onset refractory status epilepticus (NORSE)のうち、さまざまな検索を行っても原因が特定できない cryptogenic NORSE (c-NORSE)を早期・簡便に臨床診断できる c-NORSE score (0~6 点 ; 以下スコアと略す) が本学脳神経内科学教室で考案された。申請者は、1999.1.1~2019.12.31 に本学と関連施設で発症時原因不明のけいれん発作例 180 症例のうち、顕著な運動症状を伴うてんかん重積状態(SE-M)を呈した 83 症例について後方視的に臨床経過を精査、可能例では血清・髄液等の抗神経細胞表面抗体 (抗 NS 抗体) の検出も併せて行い、スコアの有用性を詳細に検討した。その結果、スコアが 5 点以上の場合、感度 93.9%・特異度 100%で診断でき、極めて早期に c-NORSE (抗 NS 抗体は陰性である) か二次性 NORSE (多くは抗 NS 抗体陽性である) か抗 NS 抗体の有無の結果を待たずして鑑別可能であることを初めて明らかにした。発表後、副査の宮岡教授より SE-M とする発作の特徴、NORSE の脳波上の特徴、薬物治療に対する応答性など、岡本教授より c-NORSE の初発時と遷延した後の MRI 画像の変化、先行する発熱の熱型、髄膜刺激症状の有無、手術適応の有無など、佐藤俊哉教授より c-NORSE に家族例の有無、GWAS の解析例、優れたスコア各項目の内容が意味する病態などへの関連・洞察など、主査岩渕より c-NORSE 診断症例における血清・髄液でのサイトカイン・ケモカイン測定、個々の c-NORSE 症例の病因解明・新規治療への今後のアプローチなどに関する質問がなされ、申請者はいずれの質問にも適切な回答を行った。審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院医療系研究科博士課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。